

令和6年度 【神戸市】認知症地域支援推進員活動報告

【神戸市】の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：101名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・認知症ケアパスの配布（区、地域包括）
 - ・認知症サポート医、認知症疾患医療センター等との連携
 - ・認知症ライフサポート研修の企画・運営（区、地域包括）
 - ・「高齢者安心登録事業」（行方不明の心配がある高齢者の事前登録、メール配信事業）における申請受理、利用者本人との面談（地域包括）、登録情報管理・メール配信（市社協）
 - ・認知症初期集中支援事業における対象者の抽出、チーム員（医療・介護推進財団、市社協）、初期集中支援チームとの連携（地域包括）
 - ・認知症カフェの後方支援
 - ・認知症高齢者等声かけ訓練の企画・実施（区、地域包括）

報告者氏名：神戸市福祉局高齢福祉課 岡 浩弥
（具体的活動報告）：西灘あんしんすこやかセンター

標題 認知症になっても住み慣れた地域へ参加できる仕組みづくり

個別地域ケア会議（Aさん）

- 場所：集会所
- 参加者：家族、民生委員、サービス事業所、薬局、ケアマネジャー等13名
- 内容：「認知症のある高齢者の生活のことで知り

今後の対応を一緒に考える」

⇒Aさんが地域で開催されているふれあい喫茶に参加したいが
認知症が原因で参加できない現状があった。

支援者同士(地域支援者・介護保険サービス関係者・家族)が話し合い
それぞれができる範囲でサポートしふれあい喫茶への参加が実現した。



**地域とつながることは大切、しかし認知症になるとつながりが分断されてしまう傾向
ほかにもサポートすることで地域とつながることができる住民がいるのではないか？
地域と一緒に考えていくことが大切。**

「集いの場リーダー」からの聞き取り

【認知症の方への配慮・工夫】

- ・ 当日の朝に声掛け、電話
- ・ 積極的に声掛け、訪問、おしゃべり
- ・ カレンダーに印

【困りごと】

- ・ 認知症状が出てくると自ら来なくなる
- ・ ボランティアはどう対応したらよいか悩む
- ・ 参加者に長く続けてもらうにはどうしたらいい？



集いの場の現状を聞き取りし、すでに認知症の参加者への工夫がなされていること、同時に困りごとがあることも把握できた。

地域ケア会議

- 場所：集会所
- 参加者：地域住民・つどいの場リーダー・ふれまち・圏域のCM・
- サービス事業所・区社協等24名
- 内容：「認知症になっても住み慣れた地域で暮らすには？」



自分が認知症になったら

こんなふうにしてもらいたい、という「理想」と

「理想を実現するための工夫」についてグループワーク

(認知症を自分ごととしてとらえてもらい、いろんなアイデアを引き出すのがねらい)

各集いの場の様々なアイデアや工夫、実際に取り組んでいる活動の共有。
認知症の人が参加しやすい集いの場の運営企画に関して
自発的な取り組みを促す有意義な場となった。

今後の取り組み

①地域ケア会議参加者の方々が思う理想の地域に近づけていく

『認知症を患ってもあんしんして暮らせるまち』

『たのしく集いの場に参加できる』

『困ったら話を聞いてくれる人がいる』 『助けてくれる人がいる』

②地域や住民、関係機関をつなぐ協力

③共助の意識を高めていく取り組み

最後に・・・

認知症の方が地域で暮らして行くには

「地域住民」の協力が不可欠！

認知症になっても住みよい地区になるよう地域住民と一緒に

協力・協働していくことが必要ではないかと感じます。